

京滋の学長

トップインタビュー



「今年、新学部「国際貢献学部」がスタートした。カリキュラムの特徴は。

「コミュニティエンゲージメント」というプログラムを設けている。事前学習で留学先の国・地域の語学や文化、歴史を学び、2年生秋にマレーシアやベトナム、オーストラリアなど国内外に留学。現地では大学での語学学習だけでなく地域社会に入り込んで高齢化や貧困など課題を見つけ、住民と一緒に解決策を考え、地域づくりに参加する実践型学習を行う。

国際社会の主役は、政府や大企業だけでなく、市民まで広がっている。学生には異文化を尊敬する姿勢を養ってほしい。このコンセプトやプログラムは将来的に、もう一つの学部である外国語学部にも広げたい。

「学生の語学学習のサポート体制は。

留学先の地域で学ぶ新学部

松田武学長

京都外国語大学・京都外国語短期大学

授業ではプレゼンテーションやディスカッションなどを通じ、「読む・書く・聞く・話す」の語学の4技能を総合的に学ぶのが基本だ。また学生が語学検定を経済的理由で受けられないことがないよう、後援会が検定料を年2回まで全額援助する制度を設けており、申請は年間千件を超える。

「海外の大学や研究機関との連携の現状や、今後の取り組みは。

もともと中南米との結びつきが強かったが、カナダや米国とも連携を深めている。交換留学など協定を結んでいるのは35カ国・地域の160大学。教員の交流や共同研究も進めており、連携先の大学と京都外国語大の両校の学位を取得できる仕組みも構築したい。

また2020年度のロシア語学科の新設を構想している。ロシアは国際政治や経済への影響の大きさだけでなく、欧米諸国とは違った文化があり、学生には新しい価値観を養ってもらいたい。また、ロシア語は国連公用語の一つでもある。高度な運用能力を持ち、行動力ある人材を育てたい。(聞き手・山田修裕)